

第6号

定価一年間300円
組合員の購読料は
組合費を含む



発行

檜山教職員組合

〒043-0056 江差町字陣屋町 86-1
Tel 0139(52)0858 FAX (52)1490
発行責任者 石橋英敏
E-mail: hiyamakyoso@proof.ocn.ne.jp

原水爆禁止2016世界大会

高校生が参加報告

原水爆禁止2016年世界大会に参加した高校生3名がそろい、3月7日に上ノ国町で報告会が行われました。参加に際しては、広く地域や職場から募金が寄せられました。(裏面に関連掲載)



原爆ドームの前で＝左から秋田さん、滝澤さん、武田さん

衝撃的な経験

分からないうことを知り

「視野が広がった」

私は原水爆禁止世界大会で多くの事を学ぶことができました。資料館では、原爆の影響で全身に火傷を負っている人や歯茎から

途絶えさせない

秋田 真衣さん

道南代表団による報告会は昨年8月に函館市ですで行われていたが、今回は松山から参加した高校生による独自の会として開催されました。主催は「原水爆禁止世界大会」に代表を送る松山の会(事務局団体は檜山教職員組合)。会場となった上ノ国町総合福祉センターに中高生を含む40人弱が集い、高校生の実直な報告に耳を傾けました。

主催者を代表し、白山尚檜山教組副委員長が挨拶、核兵器廃絶を求める国際的な運動にふれながら「若い世代への希望をつなごう」と訴えました。参加した高校生は3人も上ノ国町の16歳(高校1年生)で、2人は地元の高校、1人は函館市の高校に通います。報告を紹介します。(見出しは編集者がつけました)

1945年8月6日に広島で起こったことは比較的昔から知っていました。小学校の頃に「はだしのゲン」を読んでから自分で本や

少なく小じつが

滝澤 なつ美さん

世界大会では様々な国や地域の方々のお話を聞き、色々な目線でのお話を聞くことができました。その中で、原爆のことはもちろん枯葉剤や沖縄のアメリカ軍基地についての問題も聞き、視野を広げることができました。

出血している人、体中に斑点が出ている人などの写真、真っ黒に焦げたお弁当箱やボロボロの服などの遺品、舌や筋肉、変形した爪などの体の一部があり、すごく衝撃的なものばかりでした。しかし、その衝撃が大きかった分、これから先もずっと忘れることのない記憶にすることができました。

ある被爆者の方が言っていた言葉がとても印象に残っています。それは、「体験していないから、悲

ネットを使って調べるようになった

武田 優紀香さん

放射線の影響による傷害は、今、福島原子力発電所のトラブルもあるのを考えさせられました。体中に出る斑点や脱毛、赤痢などは当時不衛生だったこともあるのですが、現代でも起こってしまうのではないかと思います。

また、原爆資料館では、当時のまま残されている様々な物を見て、ことの重大さを感じることができました。焼けただけだ人の皮膚がとも印象的でした。ただ、人が焼けるというのがどうも感じないのか全く分からないので怖さはありませんでした。

今回の体験で多くの分からないことを知ることができました。ですが、まだまだ知らないことの方が多くです。それを知るためにこれから自分で勉強していきたいと思っています。原水爆を世界から消すために私ができることは少なく、小さなことですが、こつこつやっていきたいと思っています。

「ネットを使って調べるようになった」

武田 優紀香さん

原水爆禁止世界大会に参加して、多くの人が色々な思いで伝えようとしていることがすごいと思いました。

また、色々な角度からの意見があったため、めったに聞く機会がない内容だったので良かったです。私たちも発表をし、緊張もしましたが、伝えられたので良かったです。被爆者のお話も直接聞けて、改めて考えさせられました。

分科会では、なかなかない同年代の意見を聞くことができ、貴重でした。私は核についての討議に参加しました。核があることに賛成か反対かで、私は反対しました。しかし、賛成、仕方がないという意見が出てきてすごい驚きました。理由としては、核をなくすことによって、さらに新しい危険な武器が出てくるのではないかなどと言っていて、確かに少し納得できました。すごく良い経験になりました。参加できて良かったです。

資料館は、すごく衝撃的な写真などがあり、日本に本当に起こった現実なんだと、前よりも身近に感じる事ができました。写真を見ただけでもすごく怖かったのに、その時代に生きた人達はもっと怖かったのかなと考えさせられました。

いのち育む共同のとりくみを

檜山教組 年次大会

学校づくりなどの方針を確認



討論に立つ代議員

2月25日、檜山教職員組合は年次大会を開き、向こう

ら、さらなる条件整備の必要を訴えました。江差支部・川瀬代議員は、檜山の地で培われてき

るみのとりくみを紹介しながら、実践の蓄積を引き渡していくことの重要性を指摘しました。採来の自身を振り返り、「一人で頑張ればよい」と閉じこもっていた殻から抜け出し「みんな

で考えながら事態に向き合う」というスタイルに変容できたのは職場の同僚性だったと語り、深い共感を呼びました。上ノ国支部・滝澤代議員は、原水爆禁止世界大会に参加した高校生

う一年間の方針と新たな執行役員を選出しました。各支部の代議員が討論に立ち、経験や展望を語りました。

厚沢支部・斎藤代議員は、要求書に基づくとりくみを紹介し、着実な成果が生まれていることを報告しました。今金支部・遠藤代議員は、特別支援教育をめぐる地域ぐる

に進んだ姿が伝えられました。大会は、「いのちを育む共同のとりくみをすすめよう」とする決議を採択、当面の課題と方針を確認しました。とくに、人事評価制度が動き出しているなか、分断を持ち込ませず、子どもの教育のために結束する学校づくりについて知恵と力を結集していくことを重点としました。その一つとして、「こんな学校と教育をめざしたい」(別掲)を掲げ、それぞれの学校現場で「私たちの願い」として具

こんな教育と学校をめざしたい

- 1 どの子ども人間として大切にされ、その成長・発達が保障される教育と学校**
 - 子どもの事実と地域の実態に即し、創意と工夫が生かされる教育課程づくり
 - 子どもの発達要求に根ざした学習を保障し、確かな学力と豊かな人間性を育む教育活動の展開
 - 子どもについての理解を共有し、その成長・発達を支える態勢の整備
- 2 子どもの教育に寄せる父母・保護者の願いや地域住民の期待に応える学校**
 - 教育と子育てのための協力をつちかうPTA・保護者会の充実
 - 子どもの成長を支える地域の共同と関係者のネットワークづくり
 - 地域に開かれ、地域に根ざす教育活動の推進と地域づくり
- 3 子どもの教育に直に携わる教職員の専門性を高め、教育活動に専念できる学校**
 - 研修の機会が保障され、自主的な研修が推奨される学校
 - 実践の創意と工夫が保障され、交流される学校
 - 子どもとの信頼関係を築く努力が寄せ合える学校
- 4 校長を中心とした全教職員の協力共同が生かされる学校**
 - 教職員が英知と課題を出し合い、協力共同の関係を築く場の保障と、そのための職員会議の民主的な運営
 - 学校の実態に応じて教職員の意志が反映されるような校内組織の確立
 - 校長の経験と識見に基づく教職員の自発性と創造性が発揮される学校運営
- 5 子どもが安心して学べる条件と教職員が働きやすい環境の改善を期す学校**
 - 子どもの生活と学習をめぐる困難に心を寄せ合い、その解決に知恵を出し合う学校
 - 教職員が働きがいをもてる勤務条件の改善と職場づくりに意を尽くしあえる学校
 - 競争と統制に拠らない、参加と共同をめざす教育の創造と環境の整備



フロアーから発言する代議員

事評価制度が動き出しているなか、分断を持ち込ませず、子どもの教育のために結束する学校づくりについて知恵と力を結集していくことを重点としました。その一つとして、「こんな学校と教育をめざしたい」(別掲)を掲げ、それぞれの学校現場で「私たちの願い」として具

4月から変わる制度や確認

	いままで	4月1日から
赴任旅費増額調整	離島のみ1.3倍を上限に、実績額に増額して支給	①移動距離300km以上の赴任に対し、一定の要件(あらかじめ複数の業者から複数候補日の見積もりを徴取)を満たす場合や、特殊車両を利用した場合、1.3倍を上限に、実績額に応じて支給(新規) ②離島の調整の上限を、1.3倍から1.5倍に拡充。
異動辞令通知日	4/1の人事異動発令日前に移動したことが明らかの場合、原則赴任旅費を支給しない(私事旅行として取扱い)	赴任の発令通知日を3/31に改め、3/31の移動でも赴任旅費が支給されるよう改善
割振変更業務	(対象業務は下記の7業務) ①修学旅行の引率②文化祭③体育祭④文化祭・体育祭の事前準備(1週間前)⑤登校時の通学指導⑥校区内巡視⑦特別支援学校の現場実習の引率	(新たに2業務が追加。事前準備期間も延長) ④文化祭・体育祭事前準備期間は2週間前から ⑧家庭訪問 ⑨教育相談 ※いずれも自校の教育計画に位置づけられ、あらかじめ予定して行う業務 *定義に該当すれば、各校の名称は問わず、不登校・生徒への家庭訪問、いじめ問題への対応、ケース会議、教育支援会議、関係機関との相談業務も対象 *公用車での移動時間も家庭訪問時間に含まれる
週休日振替	(半日勤務2回の日振替は不可)半日勤務(4時間)を2回行った場合、合計8時間分は、1日(7時間45分)に振替えることはできない	(半日勤務2回の日振替が可能に)「3時間45分」の半日勤務を新たに設定し、4時間の半日勤務とあわせて1日の振替が可能に
部活動申合せ	(下記申合せは運動系に限定)	(下記申合せは文化系も新たに対象に) ①週回は休養日を設けること②授業日は放課後2~3時間程度で活動が終わるようにすること③休日は半日程度でも効果的な活動ができるようにすること④特定の教員に負担がかからないよう、複数顧問の配置を検討すること

原水爆世界大会報告会 同世代参加者の感想から

●私は原水爆禁止世界大会に松山代表として参加した3人と同じ高校1年生です。私と同じ年の人がこうして世界大会に参加したことで若い世代にも原水爆のことが受け継がれたと思います。どう自分たちの意見をあのような場で発表できる3人をとても尊敬できます。原水爆のことを語る人は少なくなってきましたが、こうして若い人たちに受け継ぐことで今後の世界平和にもつながると思います。(16才)

●今まで自分が知らなかったことについてたくさん知ることができました。また、当時の一部について、感じることで、想像以上の辛さ、苦しみを味わう体験ができました。今こうして、平和に生きていくことを当たり前に感じず、平和に生きていくことに感謝してこれからも生きていきたいと思いました。(16才)

●今日の報告会の、高校生3人の貴重な体験談を聞き原水爆などはとてもおそろしくてもうこんな事をくりかえしてはいけないという事が改めて分かった。(13歳)

視することとしました。(新制の概要は別掲)。大会は新執行役員を選出し閉会しました。(別途挨拶状を学校にお届けしております)